

日本語総合演習B

八木延佳（関西学院大学日本語教育センター／応用ドラマ教育研究会事務局長）

1. 科目の到達目標

リーフレット(宣伝用の折りたたみの印刷物)の作成を通して、日本語の多彩な表現力と実践的なコミュニケーション力を身につけます。

2. 2012年度の授業内容

履修生は8名の留学生にラーニングアシスタント(LA)として3名の日本人学生でした。

留学生には論述に適した日本語を書く力は備わっています。しかし、無料配布されるリーフレットが捨てられることなく、読んでもらえる〈面白い文章〉を書くということが一番の課題になります。

そのために、授業の前半は「発想力」「論理力」「物語力」「写生力」を訓練します。

「発想力」はマインド・マップで一つのキーワードから連想を広げていきます。書く速度が脳の連想の速さに追いつけなくなるまで行い、潜在意識からアイデアが出ることを体験します。「論理力」は抽象画を見て何に見えるかという独自の意見とその理由を述べて説得します。「物語力」は与えられた4コマ漫画の最後のコマの噴出し(人物の台詞)を考えます。また、5枚のイラスト(女の子、狼、お婆さん、森、草花)を使って簡単なお話を作り、体験の解体と再構築が物語であり、その再構築の過程で個性が現れることを学びます。さらに、そこに“自分”を登場させて、物語を三人称から一人称へ変えること、自分の対象への認知の仕方に気づいてもらいます。「写生力」は主観や感想を交えずに文章を書く練習です。キャンパスを巡ってスナップ写真を撮る感覚で、日本語の表現力を学びます。

これらの〈基礎体力〉を付けた上で、授業の後半からリーフレットの作成に臨みます。

編集会議の前には、柔軟な企画を思いつくように、コミュニケーションのワークショップで使われている色々なエクササイズを行います。身体をほぐすことにより、心や精神もほぐれ、履修生同士の関係も健やかになり、発想が広がり、話し合いが活発になります。

あとはテーマ設定、企画立案、グループ分け、アンケート、資料収集、取材、インタビュー、写真撮影と進み、グループで原稿執筆とレイアウトをします。そして、印刷所へ入稿、校正をして、リーフレットが納品されてから全員で合評会を行います。

3. 科目の成果と課題

日本人学生3名のラーニングアシスタント(LA)をチーフに取材チームを編成して、進捗状況、原稿執筆をLAがあたかも中間管理職のように把握して進め、担当教官が全体総括する編集長の役割を担いました。そうすることにより、学生に責任感が生まれ、小さいながらも組織運営を体験してもらいました。

さらに、印刷会社に入稿する際に、外部の営業マンにも理解できる言葉で自分たちのイメージを伝えることも新鮮な経験だったと思います。就活を控えた3回生のLA、日本で就職したい留学生にとって、社会人としての態度を学ぶ機会になったようです。

4. 今後に向けて

授業の途中で印刷所の見学、交流会を行いました。中国、韓国、台湾、フランス(日系)、日本の国の学生がいるなか、東アジア情勢が緊張しており、さらにチーフになるLAが留学生よりも年下なので、まず信頼関係を築くことが大切だと考えたからです。

これは功を奏したようで、クラス全体が仲良くなり、「合コン体験記」が企画で出てきたほどでした。このような“地ならし”は今後とも必要だと感じています。

